

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

カスミサンショウウオ

Hynobius nebulosus (Temminck et Schlegel, 1838)

江頭幸士郎（北九州市立自然史・歴史博物館）・松井正文（京都大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：江頭幸士郎・松井正文，2026. カスミサンショウウオ. 環境省（編）第5次
レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物， pp. 541-546.

Citation: Eto, K. and M. Matsui, 2026. *Hynobius nebulosus* (Temminck et Schlegel, 1838). In: Ministry of
the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 541-546.

カスミサンショウウオ

Hynobius nebulosus (Temminck et Schlegel, 1838)

カテゴリー判定結果		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		A2 B1ab	
基準 A: VU	基準 B: VU	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —	
A2. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 【比較年】 10 年 【過去の状況】 主に福岡県の調査記録から概算。 【近年の状況】 主に福岡県の調査記録から概算した値に加え、長崎県と熊本県で本種について調査を行っている者にヒアリングを行ったところ、この 10 年で概ね 2/3 程度に個体数・個体群が減少しており、特に島嶼個体群では減少が目立つとの意見が得られた（2022 年 2 月時点）ことから、減少率は 3 割以上 5 割未満程度と推定した。 B1. 出現範囲が 20000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。 a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。 【過度に分断】 宅地開発、メガソーラー等施設開発、水田の耕作放棄等による生息地の環境改変のため、個体群の分断が進んでいると考えられる。 b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。 【判断理由】 開発や水田放棄等による生息地の消失や分断が今後も続くと予想される。このほか、各地で雨量の変動等によると見られる繁殖地の水場消失が報告されており、これが気候変動の影響によるものだとすると今後も継続すると予想される。					
評価分科会： 爬虫類・両生類分科会					

概要

本種は九州西北部に分布する小型サンショウウオ類の代表とされるが、形態や遺伝形質に変異がある。各地で生息地の開発が進んで生息状況が悪化しており、地域個体群が絶滅した例もある。

協力者： 松尾公則（長崎女子短期大学）・坂本真理子（九州両生爬虫類研究会）・中野紘一・康子

(北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会)

基礎情報

【形態】

体は大型で（全長 60～135 mm）、前後肢ともに比較的短く前肢に対する後肢の割合は中程度。尾は短く常に上下縁に明瞭な黄色の条線がある。ツシマサンショウウオ等と姉妹群をなし、この群とイワミサンショウウオ、オキサンショウウオ等が単系統をなす。付近に分布するヤマグチサンショウウオより頭胴長が大きくて鋤骨歯列幅が狭い。

【生活史】

九州地方の西北部に分布する。丘陵地から山地で生活し、止水域で産卵する。分布域の重複するブチサンショウウオ・チクシブチサンショウウオとは多くの場合、垂直的にすみ分けている。

【生息環境】

一般には低地から丘陵地の湧水や湿地、水田（イネやセリ）と隣接した二次林、竹林、草地に生息する。産卵や幼生の成長に必要な比較的浅い止水環境と変態後の個体が生息する林が連続して存在する必要がある。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林、田地・畑地、耕作放棄地、農業用水路、湿地・湿原・細流、河川上流域 【陸域_平地部】森林、田地・畑地、湿地・湿原、農業用水路
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域、(4) 河川・湿地地域

【分布域】

九州の北西部および、近隣の島嶼から知られる。既知の産地の標高は 15～670 m、平均 113.5 m。

現在の生息状況

【分布域の現況】

近年においても、生息自体は過去に知られる産地のうち広域から報告があるが、個々の産地のうち多くは市街地や山地によって著しく分断され、すでに絶滅した地点もある。現在の生息状況はほとんどの地点で不明であるが、過去 10 年で湧水や雨量の減少、開発等により、産卵の確認されなくなった地点の報告が散見される（2022 年 2 月時点）。

【生息地の現況】

生息に必要な水の枯れない止水環境と、それに隣接した森林、草地などの陸上環境という条件は、都市近郊では丘陵地に集中しているが、その様な場所は近年もっとも開発が進む環境となっている。また過去 10 年で耕作放棄、湧水や雨量の減少のためか、水場が減少・陸化したことにより、繁殖数の著しい減少が起こったり、繁殖が確認されなくなったりした地域が各地で見られる（2022 年 2 月時点）。

【個体数の現況】

個体数は不明だが、断片的な調査記録から近年急速に個体数が減少していることは間違

いない。生息密度は季節的、年次的ともに不明である。

存続を脅かす要因

大規模な土地開発による生息地の消失と、それにとまなう汚水の流入などの水質悪化、ため池の護岸工事等による繁殖地の消失、減反による水田の乾燥化が最大の脅威となってきた。愛好者等による採集も頻繁に行われている。アメリカザリガニの他、地域によっては外来の捕食性魚類やアライグマも本種の生存を脅かしている。その他、気候変動に伴う雨量の変化などの影響と思われる天然の水場の枯渇が見られる。

要因の区分：	(過去)	森林伐採，湖沼開発，湿地開発，圃場整備，土地造成，水質汚濁，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），管理放棄，遷移進行・植生変化/自然遷移
	(現在)	森林伐採，湿地開発，圃場整備，土地造成，交通インフラ建設，水質汚濁，農薬汚染/化学物質汚染，捕獲・狩猟/園芸採取，捕食（外来種による），管理放棄，遷移進行・植生変化/自然遷移

特記事項

かつては本州西部・四国瀬戸内海沿岸にも生息する広域分布種とされていたが、遺伝子解析等の研究が進んだ結果細分され、執筆時点（2022年2月）時点では九州と周辺島嶼の固有種とされた。また九州には、形態・生態の似るヤマグチサンショウウオ大分個体群（ニホウサンショウウオ）も分布しており、これら2種の分布境界についてはまだ不明点が残る。加えて、カスミサンショウウオ種内の遺伝的分化は比較的大きく、各個体群が隔離されてからの歴史が長いと推定される。こうした点を解明するうえで、各地の個体群がそれぞれ重要性をもっている。鹿児島県指定の天然記念物に指定されている。比較的最近分類変更があったため、地方自治体のレッドリストや保護に係る法令指定、各種文献等では、分類変更前のタクソン（広義カスミサンショウウオ）として扱われている場合があることに注意が必要。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	VU
第4次 2019:	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	VU
第4次 2018:	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	VU
第4次 2017:	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	VU
第4次 2015:	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	VU
第4次:	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	VU
第3次:	カスミサンショウウオ	<i>Hynobius nebulosus</i>	VU
第2次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【岐阜県】絶滅危惧Ⅰ類，【大阪府】CR+EN，【兵庫県】Bランク，【奈良県】絶滅寸前種，
 【島根県】準絶滅危惧(NT)，【山口県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【徳島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，
 【高知県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【福岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【佐賀県】準絶滅危惧種，
 【長崎県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【熊本県】準絶滅危惧(NT)，【大分県】絶滅危惧ⅠB類(EN)，
 【鹿児島県】絶滅危惧Ⅱ類

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

特定第二種国内希少野生動植物種，都道府県条例指定種【大分県】

参考文献

- 松井正文，2010. カスミサンショウウオ. 改訂レッドリスト付属説明資料 爬虫類・両生類，pp. 13. 環境省自然環境局野生生物課，東京.
- 松井正文，2021. カスミサンショウウオ. 日本爬虫両棲類学会（編），新日本両生爬虫類図鑑，pp. 23-25. サンライズ出版，彦根.
- 松井正文，2025. 日本産サンショウウオ図譜. 技術評論社，東京. 311pp.
- Matsui, M., K. Nishikawa, S. Tanabe, and Y. Misawa, 2001. Systematic status of *Hynobius tokyoensis* (Amphibia: Urodela) from Aichi Prefecture, Japan: A biochemical survey. *Comp. Bioch. Physiol. B.*, 130: 181-189.
- Matsui, M., K. Nishikawa, T. Utsunomiya, and S. Tanabe, 2006. Geographic allozyme variation in the Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Urodela). *Biol. J. Linn. Soc.*, 89: 311-330.
- Matsui, M., H. Okawa, K. Nishikawa, G. Aoki, K. Eto, N. Yoshikawa, S. Tanabe, Y. Misawa, and A. Tominaga, 2019. Systematics of the widely distributed Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and its closest relatives. *Current Herpetology*, 38: 32-90.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hynobius nebulosus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hynobius nebulosus* is listed as VU under criteria A2 B1ab.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 30\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

B1. Extent of occurrence estimated to be less than 20,000 km², and estimates indicating at least

two of a-c: a. Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations. b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following: (i) extent of occurrence (ii) area of occupancy (iii) area, extent and/or quality of habitat (iv) number of locations or subpopulations (v) number of mature individuals	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】 Forest, Farmland, Abandoned farmland, Agricultural ditch, Wetland/Marsh/Stream, Upper river basin 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest, Farmland, Wetland, Agricultural ditch
Threat types:	Logging and wood harvesting, Wetland development, Field preparation, Land development, Transportation infrastructure construction, Water pollution, Pesticide/Toxic chemical pollution, Hunting and collecting animals/Gathering plants, Predation (by alien species), Abandonment of management, Successional progression/Vegetation change/Natural succession
Law designation status for conservation	Specified class II nationally rare species of wild fauna and flora. Prefectural Ordinance-Designated Species 【Oita】 .



執筆者:	江頭幸士郎（北九州市立自然史・歴史博物館）・松井正文（京都大学）
Author:	Koshiro Eto and Masafumi Matsui

公表年月：2026 年 3 月